

宮城県塩釜地域プロジェクト もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【事業実施者：(社)日本トロール底魚協会】
実証期間：平成21年8月1日～平成22年2月24日

塩竈地域を基地とする遠洋底びき網漁業(既存船を用船)の安定的な操業の継続と塩竈地域への水産物の安定供給を図るため、インドネシア200海里水域における新漁場の開発及び有用新魚種等の市場開拓をねらいとする実証事業を実施した。

実証項目

【生産に関する事項】

①インドネシア水域での新漁場開発

②省エネ・省コスト

【流通・販売に関する事項】

①新魚種・未利用魚種の市場開拓・販売促進



実証結果

【生産に関する事項】

①インドネシア海洋水産省による操業許可証の発給を受け、平成21年8月27日に同国メダン港を出港、西スマトラ沖北方水域においてミナミヒウチダイの好漁場を発見し、12月10日までに2航海(操業日数109日、総漁獲量549トン)を終えた時点で、インドネシア海軍当局によって船体の拘束を受け、平成22年1月9日に拘束の事由が不明のまま解放される事態が生じた。実証事業再開に向けて模索したが、政権交代直後の政情不安から、関係政府機関より、操業再開後の安全性確保の保証が得られず、当該水域における実証操業を中止した。

当該水域における漁場に関する情報は限定的ではあるが、漁獲を通じてミナミヒウチダイの分布に関する有用な知見が得られた。

②海底状況等に適合した低抵抗漁具を用いて操業した結果、オッターボードの拵網力が向上・安定したほか、従来網に比べて曳網抵抗値は約2割削減されたと推定された。

【流通・販売に関する事項】

①漁獲物の大部分(キンメダイ・58トン、ミナミヒウチダイ・451トン)を塩釜港に水揚げしたが、特にミナミヒウチダイは新魚種であったこと、事業の途中終了によって、安定的、継続的に供給が出来なかったこと等から、市場での認知、評価を受けるまでに至らず、総売上金額は54,130千円となった。

収益性の改善について

上記のとおり、インドネシア水域における新たな漁場開発とそれに伴う漁獲物(新魚種・未利用魚)の用途、販路等が未確定な段階での事業終了を余儀なくされたため、当該漁業の収益性の回復について検証するまでには至らなかった。